

病気になってしまったぼくの犬

六年 戸倉涼太郎

僕の家には、ぼくより三才上の犬がいます。三才年上だけど人間の年れいに例えると、七十六さいから八十さいぐらいのおばあちゃん犬です。名前はちーずといいます。名前の由来は生まれたときにチーズケーキみたいだったからです。ちーずはとっても食いしん坊で、特にさつまいもや食パン、りんごが大好きです。ゴミ箱をあさったり、ドッグフードの袋をいたずらするときもあります。いたずらする理由は、ちーずが家で留守番をしていて、さみしいからです。

そんなちーずは、半年前ぐらいから病気になりました。変性性せきずい症という病気です。後ろ足に力が入らなくなり、お尻が上がらなくなりました。後ろ足をひきずって前足だけで動くようになりました。足をひきずってしまうので散歩に行くとき足から血がでてしまうようになり、大好きだった散歩も嫌がるようになりました。そこで、後ろ足にくつ下をはかせてみました。最初は足から血がでなくなりましたが、しばらく歩くと、くつ下も破れて血が出てしまうようになりました。ぼくは、ちーずの足を治すために、マッサージをしてあげました。しかしちーずの足は、治りませんでした。ちーずの病院の先生に相談したところ、犬の車いすがあることがわかりました。そこで、散歩の大好きなちーずのた

めに車いすを作ってもらうことにしました。数週間後、ちーずの車いすが完成しました。すると、走ってボールを追いかけてたり散歩ができるようになりました。ぼくは、よかったと思いました。

ぼくは、これからもちーずのために出来ることがあるか考えて、一日でもちーずが長生きしてもらえるようにがんばっていききたいです。